# スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教え　『自分を信じ、神を信じる』

### 2015年1月18日

### スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕153周年記念祝賀会

### スワーミー・メーダサーナンダによる講話

### 於・逗子協会

ご存じかもしれませんが、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージー）は儀式をあまり好まれませんでした。それよりも、誰であっても重要なのは人格を変化させることだと考えていらっしゃいました。シュリー・ラーマクリシュナが亡くなられた後、スワーミー・ラーマクリシュナーナンダジーを始めとする兄弟弟子が、師の礼拝を日常的に行うようになりましたが、スワーミージーはこれを好まれず、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝するよりもその教えを実践することの方が重要だとよく仰いました。出家の弟子に向かって冗談で、自分が死んだ後に自分の写真に向かって線香を振って礼拝したりしたら、化けて出るぞと言われました。

このことから、スワーミージーが礼拝を好まれなかったことが分かります。スワーミージーは、自分と師の教えに従って、各自が自己の本性を変えることに重きを置かれました。この点については、ラーマクリシュナ・マトやラーマクリシュナ・ミッションはいくぶん譲歩し最低限の礼拝を続けていますが、やはり御二方の教えの実践や霊性の実践の方をはるかに大切にしています。今日礼拝をしたことでスワーミージーが化けて出ることはないと思いますが、もしそうなっても、個人的には大歓迎です。普通の幽霊とは全く違うでしょうから。

先ほど、スワーミージーの教えや言葉をまとめた『立ち上がれ　目覚めよ』の小冊子を輪読しましたが、自分にとって最も印象に残るものはどれか、皆さんに聞きたいと思います。

（ここで、参加者の一人が、読んだ中からではないが、「宇宙のすべての力はすでに我々のものである。目を自分の手でふさいで『暗い』と言って泣いているのは、我々だ」が好きだと答えました。

他の参加者からは、以下のような言葉が挙げられました。

「弱さの治療薬は強さである」

「失敗や少しばかりの後戻りを決して気にするな。千回でも理想にしがみつけ。千回失敗しても、もう一度やってみればいいのだ」

「立ち上がれ、目覚めよ。ゴールに達するまで立ち止まるな」

「自分を羊ではなくライオンだと考えよ」

「最後に勝つのは愛だ」

「弱さはすべて捨て去れ」

マハーラージは参加者にお礼を述べて、質問を終わりにしました。）

スワーミージーの教えが与えた影響は実に大きなものです。ラーマクリシュナ・ミッションがベンガル語で発行している月刊誌『ウドボーダン』で、エベレスト山に登頂したインド人が書いた記事を読んだことがあります。非常に興味深い内容でした。ご存知のように、エベレスト山に登ることは簡単ではなく、常に命の危険にさらされます。悪天候、疲労、死の恐怖、失望、食糧や酸素の不足など、様々な問題を切り抜けなければなりません。肉体面だけでなく精神的な苦難も乗り越えなければなりません。記事の中で筆者は、険しい道を進みながら何度もスワーミージーの教えを思い出して勇気と力を奮い立たせたと語っていました。例えば、「ゴールに達するまで立ち止まるな」です。危険で困難な状況に陥り、登頂をあきらめようかと思ったことが何度もあったそうですが、その度に、スワーミージーのこのメッセージが前進し続ける原動力となりました。これと関連して、「強さは生であり、弱さは死だ」や、「信じること、信じること、自分自身を信じること」もよいメッセージでしょう。できる、と考えるのです。できると思えばできる。すなわち自分を信じることが、このような仕事を成し遂げるには不可欠です。

昔、ヒマラヤの聖地に行こうとしておじいさんが山を登っていました。だいぶ登ったところですっかり疲れ、もうあきらめようかと考えていたところ、ちょうどスワーミージーと道で会いました。スワーミージーはおじいさんの状況を聞くと、こう言われました。「平地からここまで登ってこられたのは、あなたです。そのあなたなら、ゴールまでの同じ道をきっと登り続けることができますよ」この言葉におじいさんは力が湧いてきて、再び山を登り始めました。

私たちの人生を考えてみると、道がなだらかで簡単に進めることもあれば、時には大きな困難に見舞われることもあります。そんな時、多くの人は希望を失い、失望し、弱気になり、どうしてよいのか分からなくなります。あきらめて人生そのものから逃げ出したくなる人もいます。しかし、スワーミージーのメッセージにあるように、人生の危機が訪れた時、私たちに必要なのはただ二つのことです。自分を信じ、神を信じることです。

人生から困難やストレスがなくなることを期待している人もいます。しかし、障害やストレスのない人生など本当にあり得るでしょうか。また、そのような人生は望ましいのでしょうか。成長のためには、問題やストレスは必要です。学生時代に試験が好きだったという人はいないでしょうが、試験があるからこそ私たちは勉強したのです。一人で勉強してシェークスピアやラビンドラナート・タゴールのようになった人が一体何人いるでしょう。困難な状況に置かれて初めて人は努力し、努力するから成長するのです。困難がなければ、努力も成長もしないでしょう。

もし、沈むか泳ぐか、どちらしかないとしたら、皆さんはどうしますか。沈むでしょうか。きっと必死に泳ぐでしょう。私が日本に来た時が、まさにその状況でした。あきらめてインドに戻るか（笑い）、困難に立ち向かうか、二つに一つでした。その時の事をお話ししましょう。

日本に来る前、私は大学の運営を任されており、ただ指示を出すだけでした。逗子の協会に着いた時、指示を出す相手も、私の食事を作ってくれる人もいませんでした。だんだん信者さんが料理をしてくれるようになりましたが、誰にも作ってもらえないこともありました。そこで私は、料理を覚えないと飢え死にしてしまうと覚悟を決め（笑い）、料理を覚えました。

また、ベルル・マトにはお坊さんの所に来てくれる床屋さんがいたので、いつも来てくれた時に髪を剃ってもらっていました。しかしここではそんなことをしに来てくれる人はいません（笑い）。お坊さんが床屋に行って髪を剃ってもらうなんて想像できませんので、剃髪も自分で覚えました。

さらに、気候も違います。コルコタでは少し寒くなるだけで、日本のような厳しい冬はありません。私からすると、日本は1年のうち5～6ヵ月は寒いと感じます。

そして、インドにはお坊さんがたくさんいますから、一緒に散歩したり、話したり、冗談を言って笑い合うこともできますが、ここでは私一人です。鏡でも見ない限り二人にはなりません（笑い）。

インドでは私は教育機関で仕事をしていましたが、日本では、信者さんたちに向き合うという全く違う仕事をします。

また、日本語も全く知らず、日本の信者さんを一人も知りませんでしたので、コミュニケーションが全くありませんでした。皆さん、私が置かれた立場がお分かりでしょうか。あきらめてインドに戻るか、日本に残るか、二つに一つだったのです。

今、日本に滞在して約21年になりました。シュリー・ラーマクリシュナという神様を信じて、助けていただきながら、困難を受け入れたからです。スワーミージーの言葉に戻りますが、スワーミージーは、逃げずに問題や苦境に立ち向かえと仰っています。21年日本に住んで、今私は後悔しているでしょうか。時間の無駄だったと感じているでしょうか。とんでもない、このおかげで私は成長できたと感じています。不利な状況の中でも、異国の地でやっていく自信が十分にあります。私の例に限らず、誰にでも同じ事が言えるでしょう。問題が生じたら、立ち向かうのです。それで自分が成長し前進することができるからです。

スワーミージーが仰ったように、「最終目的は、真我を悟ること」なのです。少しだけ祈り、神様の名前を唱えて瞑想したら、真我を悟れるのでしょうか。そんなに簡単ではありません。自分の心を変え、性質を変えねばなりません。私たちの利己心は大変大きく、心は大変狭く、多くの恐れや疑いを抱えています。ただ少し祈ってマントラを唱えるだけでは、大きく変わることはできません。これらは、スワーミージーが仰ったように、霊的な生活を送るために取り組まねばならない課題なのです。

スワーミージーが、人生でどれ程の困難に見舞われたか、考えてみてください。偉大な人物ほど多くの苦難と闘っています。スワーミージーは万国宗教会議に出たかったのにお金がなく、紹介状もありませんでした。そして、紹介状を手に入れると、今度は宗教会議の関係者の住所を無くしてしまいました。お金がなかったため食べるものがないこともありました。インドの僧侶がするように托鉢をしたかったのですが、アメリカでは托鉢を理解する人はほとんどいません。あらゆる希望を失いかけていたところに、主の助けがありました。

これも、スワーミージーの教えの一つです。打開策を見つけようとあらゆる事をやってみてもダメな時、必ず主の助けが来ます。つまり、二つのことが必要です。自分を信じて自助努力をすること、そして神様を信じることです。そうすれば、最後にはうまく行くのです。

他の例をお話ししましょう。スワーミージーの生誕150周年祝賀記念年間行事が終わって間もないですね。2013年に祝賀委員会でどのような祝賀行事を行うか討議した時に、一番の問題はお金でした。ですから、最初は質素にお祝いしようと考えていました。しかし、提案を完成させる期限が近くなってから、開会式や閉会式など、いくつかのプログラムがどうしても必要になり、それ抜きでは日本で祝賀行事を行う意義がなくなると思われました。また、スワーミージーに関する展示会や雑誌の特別号も必要でしたし、スワーミージーの知名度を上げるために書籍を無料で配布することにもしました。さらに、熊本や関西でも祝賀会を開催する必要があると感じていました。しかし、資金源はありませんでした。

当時、インド政府から、インド国内、およびスワーミージーが訪問したことのある国、およびスワーミージーと特別な関係がある国における祝賀活動について文書が送付されてきましたが、日本での祝賀活動の経済的支援を保証するという事までは触れられておらず、結局、そのような助成金はありませんでした。協会としては、行事の縮小や行事の一部を中止するか、資金を募るかの二つに一つでした。しかもこれは、協会の新館建設の費用をまかなうための募金を信者さんたちにお願いした直後のことでしたので、私は記念行事のために再び募金をお願いするのをためらいました。最終的に、特定の個人数名にお願いをして、幸運にも、他からの寄付も合わせ約800万円を集めることができました。

ふたを開けてみると、計画通りにすべて実行できただけでなく、わずかですが手元に余った資金が残りました。このようにうまく行った秘訣は何だったのでしょうか。計画をあきらめず、自助努力をしたことです。そして、神様の助けがあったからです。人はお金があっても、募金したいという気持ちを神様から与えられない限り募金しません。ヒンディー語の諺に、「神が動機を与えなければ、富者も募金をしない」というものがあります。

私たちは、これまでにこのようなことを何度も経験しています。ラーマクリシュナ・ミッションのようなNGO（非政府組織）で、組織の維持や発展のための費用を完全に寄付に頼っているところはたくさんあります。私たちは寄付に頼るしかなく、寄付は確かなものではありません。ラーマクリシュナ・ミッションがゼロから発展し巨大な組織になったのも、自助努力と神様の恩寵の二つを信じて実践しているからです。

自信とうぬぼれの違いは分かりますか。（ここで、出席者から答えが出ます。「自信は『自分はできる』と考えること、うぬぼれは『自分にしかできない』とか『自分の方がうまい』と考えることです」）では、自信の源はどこにあるのでしょうか。「自分はやったことがあるから、自信がある」とか「これを学んだことがあるから、できる」とか、「人がやっているのを見たことがあるから、できる」と思うかもしれませんが、私の聞いているのはこのことではありません。

「私はできる」という考えが生じるのは、人格のどのレベルからでしょうか。大まかに言うと、心、知性、記憶、「私」意識、すなわち「心と体」のレベルからです。しかし、スワーミージーが仰る「自信」とは、「心と体」のレベル、自我と心と知性と記憶の集まったレベルから生じるものを指しているのでしょうか。

日本には以前、きれいな池がたくさんありました。インドにはまだたくさんあります。池の水は雨水が集まってできることが多いので、夏の暑さが続くと池は干上がってしまいます。しかし、池の中には、自然に水がわき出ていて決して枯れないものもあります。池の水を抜いてみると、池の水がわき出ているのが見えます。同様に、もし私たちの自信が「私」意識や知性、心、記憶の集まりから生まれているのであれば、雨水でできた池と同じく干上がることがあるでしょう。「私」意識や知性、心、記憶はどれも有限だからです。

スワーミージーが仰る自信とは、アートマンを指しています。無限のアートマンから生じる自信は、大きく、決して枯れることはありません。アートマンは無限の強さ、無限の叡智、無限の至福ですから、アートマンという源と自分を結びつけることができれば、強さや力、知識は無限になります。スワーミージーの仰った「自信」とは、アートマンから生じる自信と個々の自己を結びつけねばならないという意味です。

スワーミー・トゥリヤーナンダジーは、真の正しい「私」意識は二つあると仰いました。一つは「私はアートマンである」というもの、もう一つは「私は神の信者だ」というものです。これ以外の自信はもろいものですから、「私はアートマンだ」という事実に、または「私は神の信者だ」という点について、自信が必要です。そして、この二つは実は同一です。神は、アートマンという形で私たちの中にいらっしゃり、このアートマンがマクロレベルになると神である、ということを理解する必要があります。知識がこのレベルに達するまでは、自分を信じ、神様を信じるという言い方をしましょう。

スワーミージーの教えを理解するにあたり、今日、私たちは「自分を信じ、神様を信じる」ことについて考えてみました。スワーミージーは、私たちにこの二つができれば、人生において素晴らしいことができると仰いました。日本の諺にもある通り、「人事を尽くして天命を待つ」のです。